

	ゼミナール名	ゼミナール I (行動科学ゼミナール)		
	ゼミ担当者名	市原 光匡		
	科目分類	専門科目群		
	開講年次	2年次	開講期間	通年
	開講時限	水曜日 1限	単位数	2単位
	実施方法	<input checked="" type="checkbox"/> 対面のみ <input type="checkbox"/> 遠隔のみ <input type="checkbox"/> 対面・遠隔併用		

ゼミのテーマ	教育学やその基礎となる行動科学の研究手法に触れ、研究の素地を養うとともに、その手法を用いて課題研究を行う。
ゼミの到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 教育学やその基盤としての行動学の研究枠組みを理解し、説明ができる。 2. 個々の能力や適性、興味関心をもとに研究テーマを設定し、それにしたがって研究を行うことができる。
ゼミの概要	<p>前期では、まず教育学に関するテキストを読み、教育学の対象と方法を理解するとともに、教育学研究に貢献する行動科学の基礎をふまえる。そのうえで、それぞれの関心をもとに学生自ら今後取り組む研究テーマを検討する。</p> <p>後期は、前期の学習をふまえ、それぞれ課題を設定し、個人またはグループで課題に取り組む。</p>
授業時間外の学習	現代の社会問題に関心を向け、自分なりの考えを主張できるようにしておきたい(1.5時間程度)。また復習として、授業で取りあげる研究分野ごとにその研究方法や研究の意義などをふまえておくこと(1.5時間程度)。
履修条件	<p>特に設けない。ただし、下記の要件を満たさなかった場合、特別の事情のあるものを除き単位の修得を認めない。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・今年度中に「地域フィールドワーク」「教育学入門」のいずれかを修得すること(または修得済みであること)
テキスト	小川正人・森津太子・山口義枝〔編著〕『心理と教育を学ぶために』放送大学教育振興会、2012。 岡崎友典・永井聖二〔編著〕『教育学入門－教育を科学するとは－』放送大学教育振興会、2015。
参考文献・資料	必要に応じて適宜指示する。
成績評価の方法	ゼミナール内での発表・報告 40%、平常点 40%、期末試験 20%の割合で評価を行う。 ※出席回数が規定に満たなかった場合及び授業料その他納入金等の全額を納めていない場合は試験を受けることができません。
オフィスアワー	火曜日 10:40～12:10・木曜日 14:40～16:10
成績評価基準	秀(100～90点)、優(89～80点)、良(79～70点)、可(69～60点)、不可(59点以下)
学生へのメッセージ	<p>学生の参加によって成り立つ授業である。時間と手間はかかるが、興味関心をもって積極的に参加すれば、他の授業では得られない発見や体験もできる。したがってゼミナールの活動には積極的に参加するようにしたい。</p> <p>また各回意見交換の機会を設けるので、ゼミナール内でのコミュニケーションを深め、他者と協働しながら学習をすすめていくことが期待される。特に、毎回テーマと担当者を決めてスピーチを行うこととしている。担当者は事前に準備してスピーチに臨むこと。</p> <p>なお、やむをえない事情により欠席・遅刻する際にはその都度連絡すること。</p>

授業計画			
第1回	ガイダンス・研究倫理教育（研究活動における不正行為・不適切な行為の防止について）	第17回	後期ガイダンス・計画実施状況の確認
第2回	文献講読①（教育学と近接の研究領域）	第18回	参考文献の報告会①（第1グループ）
第3回	文献講読②（教育学の研究対象と研究分野・研究方法）	第19回	参考文献の報告会②（第2グループ）
第4回	文献講読③（学習行動・学習者理解のための心理学研究（1））	第20回	参考文献の報告会③（第3グループ）
第5回	文献講読④（学習行動・学習者理解のための心理学研究（2））	第21回	文献講読⑪（学校の組織と文化）
第6回	問題意識の明確化	第22回	中間報告会（第1グループ）
第7回	研究テーマの設定	第23回	中間報告会（第2グループ）
第8回	研究テーマの報告・グルーピング	第24回	中間報告会（第3グループ）
第9回	文献講読⑤（学習行動・学習者理解のための社会学研究（1））	第25回	文献講読⑫（教育内容と教育方法）
第10回	文献講読⑥（学習行動・学習者理解のための社会学研究（2））	第26回	文献講読⑬（転換期における教育）
第11回	文献講読⑦（教育学の系譜（1））	第27回	文献講読⑭（教育の構造と機能）
第12回	文献講読⑧（教育学の系譜（2））	第28回	文献講読⑮（教育の文化的基礎）
第13回	文献講読⑨（近代社会の成立と学校）	第29回	最終報告会（第1グループ）
第14回	文献講読⑩（公教育制度の展開とゆらぎ）	第30回	最終報告会（第2グループ）
第15回	研究計画の策定	第31回	最終報告会（第3グループ）
第16回	定期試験	第32回	定期試験

	ゼミナール名	國井ゼミ		
	ゼミ担当者名	國井法夫		
	科目分類	専門科目群		
	開講年次	2年次	開講期間	通年
	開講時限	水曜日1限	単位数	2単位
	実施方法	<input checked="" type="checkbox"/> 対面のみ <input type="checkbox"/> 遠隔のみ <input type="checkbox"/> 対面・遠隔併用		

ゼミのテーマ	2年生は全員、日本商工会議所簿記3級を取得していただきます。
ゼミの到達目標	日商簿記3級、この目標に到達した学生は2級取得を目指していただきます。
ゼミの概要	簿記の問題演習、後期には秋田県人材育成事業の発表
授業時間外の学習	各自、問題演習並びにわからないところは研究室に聞きに来る。
履修条件	学生便覧に掲載されているルールが守れる学生。
テキスト	各自に指示する。
参考文献・資料	
成績評価の方法	<p>学習態度(60%)・成績(40%)等で総合評価します。</p> <p>※出席回数が規定に満たなかった場合及び授業料その他納入金等の全額を納めていない場合は試験を受けることができません。</p>
オフィスアワー	水曜日4時間目
成績評価基準	秀(100~90点)、優(89~80点)、良(79~70点)、可(69~60点)、不可(59点以下)
学生へのメッセージ	まじめに目標に向けて努力できる学生を希望します。

授業計画			
第1回	簿記の意味・目的・種類	第17回	売掛金と買掛金(2) 買掛金とは その処理
第2回	簿記の基礎概念(1) 資産・負債・資本について	第18回	その他の債権と債務(1) 貸付金・手形貸付金等の処理
第3回	簿記の基礎概念(2) 費用と収益について	第19回	その他の債権と債務(2) 未収金・未払金等の処理
第4回	取引と勘定と仕訳(1) 経済取引を仕訳にする	第20回	手形(1) 手形とは
第5回	取引と勘定と仕訳(2) 経済取引を仕訳にする	第21回	手形(2) 手形の処理方法
第6回	帳簿の記入 帳簿への記入方法	第22回	有価証券・固定資産
第7回	決算と財務諸表(1) 貸借対照表について	第23回	減価償却 減価償却とは その処理方法
第8回	決算と財務諸表(2) 損益計算表について	第24回	資本金と引出金 処理方法について
第9回	現金預金取引(1) 現金等の処理	第25回	試算表の作成 仕訳から総勘定元帳への転記の確認
第10回	確認小テスト	第26回	税金、帳簿と伝票 3伝票制の処理について
第11回	現金預金取引(2) 当座預金の処理	第27回	決算と財務諸表 決算手続きについて
第12回	現金預金取引(3) 当座預金の期末での処理	第28回	決算と財務諸表 売上原価の計算とその処理について
第13回	商品売買(1) 分記法	第29回	決算と財務諸表 費用収益の繰延べと見越し等
第14回	商品売買(2) 3分法について	第30回	精算表等の作成
第15回	売掛金と買掛金(1) 売掛金とは その処理	第31回	
第16回	前期定期試験	第32回	後期定期試験

	ゼミナール名	ゼミナール I (マーケティングゼミナール)		
	ゼミ担当者名	黒坂 和彦		
	科目分類	専門科目群		
	開講年次	2年次	開講期間	通年
	開講時限	水曜日 1限	単位数	2単位
	実施方法	<input checked="" type="checkbox"/> 対面のみ <input type="checkbox"/> 遠隔のみ <input type="checkbox"/> 対面・遠隔併用		

ゼミのテーマ	マーケティングの基礎知識や理論を具体的な事例を通して学びながら、実際のビジネスシーンで役立つ問題解決能力を培う。
ゼミの到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. マーケティングの基礎知識や理論を体系的に習得し、主要な内容を説明できる。 2. 身近な製品やサービスまたは興味を持った企業等の活動について、マーケティングや経営の側面で自身の見解を論述することができる。
ゼミの概要	<p>本ゼミでは、マーケティングの基礎から応用までを体系的に学んでいきます。また、実際の企業や市場の事例検討においては、意見交換やグループワークの機会を設け、課題解決に取り組みます。</p> <p>マーケティングは、企業等の経営に直結する活動でもありますので、マーケティングと経営の関連性についても触れる予定です。</p>
授業時間外の学習	<ol style="list-style-type: none"> 1. 事前にテキスト等の指定された箇所を読み込み、わからない用語があれば調べておいて下さい。 2. 日頃から新聞や経済紙（オンライン含む）、TV、ラジオ等でニュースを確認して、経済の動きに絶えず関心を持つようにして下さい。
履修条件	2年生のゼミであり、マーケティングを入門的な内容から学んでいく構成となっていますので、履修条件は特にありません。
テキスト	『1からのマーケティング』第4版、石井淳蔵、廣田章光、清水信年 編著、碩学舎、2022年
参考文献・資料	『マーケティング・オン・ビジネス』第2版、有馬賢治・岡本純 編著 『コトラーのマーケティング 4.0』フィリップ・コトラー、カルタジャヤ、イワン・セティアワン 著、恩藏直人 監訳、藤井清美 訳
成績評価の方法	ゼミにおける発言や報告等の取り組み姿勢 50%、定期試験（レポート等）50% 上記評価項目をベースにして総合的に判断します。 ・出席確認時に不在の場合は、原則としてその回は欠席とします。 ・演習中に無許可で退出した場合は、欠席とします。 ※出席回数が規定に満たなかった場合及び授業料その他納入金等の全額を納めていない場合は試験を受けることができません。
オフィスアワー	月曜日 15:00~16:00、金曜日 14:00~16:00
成績評価基準	秀(100~90点)、優(89~80点)、良(79~70点)、可(69~60点)、不可(59点以下)
学生へのメッセージ	本ゼミでは、テキスト等で基礎知識や理論を学ぶだけでなく、実際のビジネスシーンを意識した実践的な内容を重視します。是非、積極的に自身の意見やアイデアを発し、ゼミナール内でのコミュニケーションを深めて下さい。共に学びながら、マーケティングの面白さを体験していきましょう。

授業計画			
第1回	前期ガイダンス、研究倫理教育	第17回	後期ガイダンス（前期振り返り・後期の授業展開）
第2回	マーケティングのアウトライン	第18回	顧客理解のマネジメント
第3回	企業活動とマーケティング	第19回	ブランド構築のマネジメント
第4回	マーケティングの発想の経営	第20回	ブランド組織のマネジメント
第5回	マーケティング論の成り立ち	第21回	社会責任のマネジメント（1）
第6回	マーケティングの基本概念	第22回	社会責任のマネジメント（2）
第7回	製品のマネジメント	第23回	マーケティングと組織
第8回	価格のマネジメント	第24回	サービス・マーケティング
第9回	広告のマネジメント	第25回	インターネット・マーケティング
第10回	チャネルのマネジメント	第26回	グローバル・マーケティング（1）
第11回	サプライチェーンのマネジメント	第27回	グローバル・マーケティング（2）
第12回	営業のマネジメント	第28回	マーケティング戦略のフレームワーク（1）
第13回	顧客関係のマネジメント	第29回	マーケティング戦略のフレームワーク（2）
第14回	ビジネスモデルのマネジメント	第30回	任意に選んだ企業等のマーケティング活動
第15回	前期のまとめ	第31回	まとめ
第16回	定期試験	第32回	定期試験

	ゼミナール名	ゼミナール I (経営分析ゼミナール)		
	ゼミ担当者名	佐藤 元治		
	科目分類	専門科目群		
	開講年次	2年次	開講期間	通年
	開講時限	水曜日 1限	単位数	2単位
	実施方法	<input checked="" type="checkbox"/> 対面のみ <input type="checkbox"/> 遠隔のみ <input type="checkbox"/> 対面・遠隔併用		

ゼミのテーマ	経営分析の手法を使って実在する企業を分析する。
ゼミの到達目標	様々な視点から企業を分析できるようになること。
ゼミの概要	同じ業界に属する2つの企業を比較、分析する。
授業時間外の学習	経営分析(財務分析論を含む)の学修 日頃から企業情報にアンテナを立て情報収集する
履修条件	「財務分析論(3年次)」を履修すること 4年次に研究発表(プレゼンテーション)を行うこと
テキスト	桜井久勝(2024)『財務諸表分析 第9版』中央経済社
参考文献・資料	適宜紹介する
成績評価の方法	授業での議論への参加・貢献(25%)、課題・定期試験(75%)を総合判断する。 ※出席回数が規定に満たなかった場合及び授業料その他納入金等の全額を納めていない場合は試験を受けることができません。
オフィスアワー	月曜 14:40~16:10 水曜 13:00~14:30 (時間割確定後変更の可能性有)
成績評価基準	秀(100~90点)、優(89~80点)、良(79~70点)、可(69~60点)、不可(59点以下)
学生へのメッセージ	素晴らしい製品・サービスを提供している企業、業績好調(不調)な企業の原因をできる限り深掘りしていこう。

授業計画			
第1回	ガイダンス 研究倫理教育:研究活動における不正行為・不適切な行為の防止について	第17回	業界分析
第2回	分析対象業界・企業を探す	第18回	業界分析
第3回	分析対象業界・企業を探す	第19回	業界分析
第4回	分析対象業界・企業を探す	第20回	業界分析
第5回	業界分析・企業分析	第21回	業界分析
第6回	業界分析・企業分析	第22回	企業分析
第7回	業界分析・企業分析	第23回	企業分析
第8回	分析対象業界・企業の決定	第24回	企業分析
第9回	分析対象業界・企業の決定	第25回	企業分析
第10回	分析対象業界・企業の決定	第26回	企業分析
第11回	業界分析	第27回	企業分析
第12回	業界分析	第28回	企業分析
第13回	業界分析	第29回	企業分析
第14回	業界分析	第30回	企業分析
第15回	業界分析	第31回	研究発表
第16回	定期試験	第32回	定期試験

	ゼミナール名	ゼミナール I (感性データサイエンス)		
	ゼミ担当者名	津谷 篤		
	科目分類	専門科目群		
	開講年次	2年次	開講期間	通年
	開講時限	水曜日 1限	単位数	2単位
	実施方法	<input checked="" type="checkbox"/> 対面のみ <input type="checkbox"/> 遠隔のみ <input type="checkbox"/> 対面・遠隔併用		

ゼミのテーマ	感性工学でよく用いられる解析手法を用いて対象としたものの解析を行い、その結果を世の中に役立てる方法を提案する。
ゼミの到達目標	データサイエンスの中でも主に感性工学で用いられる解析手法（主成分分析、対応分析、ネットワーク分析、テキストマイニングなど）を用い、様々な物事のイメージや性質を定量評価できるようになる。そしてその結果の応用法を提案できるようになる。
ゼミの概要	<p>感性工学は、人間の感性という説明しにくいものをアンケートや多変量解析などを用いて数値化し、それをものづくりやマーケティングに活かす学問とも言える「理系と文系の融合領域」です。感性工学でよく用いられる手法を用い、ファッション、音楽、マンガ、アニメ、ゲーム、映画、観光、食品など、様々なものを解析してみましょう。そしてその結果を世の中への貢献に役立たせる方法を考えましょう。（とはいうものの学問で普通に研究対象となるものにも使用可）。</p> <p>1年間の間に次のような流れを解析方法を変えて何回か繰り返します。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 解析のPCでの計算方法を教わる 2. サンプルデータで解析してみる 3. その解析法が用いられた研究の調査 4. 各々選んだ研究対象に対してその解析を行ってみる 5. 解析結果とその解釈、その役立たせ方をゼミメンバーに紹介する <p>2年生時、3年生時では基本同じような繰り返して行っていきます。つまり2年間続けてゼミに参加した場合、より多くの解析を行ったこととなります。4年生時にはこれまで行った解析結果の中で良かった内容を卒業研究テーマとして選択すればいいでしょう。いくつか良い結果が出たならぜひ学会発表に挑戦してみましょう。</p>
授業時間外の学習	普段から研究テーマさがしをしてほしいです。 解析結果の紹介時にはスライドなどの資料を作成してもらいます。
履修条件	<ul style="list-style-type: none"> ・ノートパソコンを持参する ・「データサイエンス基礎」「ビッグデータとAI」を受講することが好ましい
テキスト	じっくり学びたい解析法に出会ったときはその都度参考にできるものを紹介します。
参考文献・資料	こちらで資料を用意します。
成績評価の方法	定期試験(20%),ゼミ活動への参加状況(30%),ゼミ内・学内・学外での発表状況(50%) (学会発表高得点) ※出席回数が規定に満たなかった場合及び授業料その他納入金等の全額を納めていない場合は試験を受けることができません。
オフィスアワー	金曜日 13:00~17:10 tsuya@nau.ac.jp にご連絡いただけると他の日時も対応可能です。
成績評価基準	秀(100~90点)、優(89~80点)、良(79~70点)、可(69~60点)、不可(59点以下)
学生へのメッセージ	感性工学は普通の理系学生や普通の文系学生がたどり着けないいわば「文系であることを活かしたデータサイエンス」であるといえます。その学びを得て、就職活動などを行う際に「私は文系の大学でデータサイエンスの研究を行っていました。」と堂々と言えるようになりましょう。

授業計画			
第1回	研究倫理教育と感性工学研究の紹介	第17回	QGIS を実データに対して使ってみる
第2回	対応分析のやり方の説明	第18回	テキストマイニングのやり方の説明
第3回	サンプルに対して対応分析を行ってみる	第19回	サンプルに対してテキストマイニングを行う
第4回	対応分析が用いられた研究の調査①	第20回	テキストマイニングが用いられた研究の調査①
第5回	対応分析が用いられた研究の調査②	第21回	テキストマイニングが用いられた研究の調査②
第6回	対応分析が用いられた研究の調査③	第22回	テキストマイニングが用いられた研究の調査③
第7回	各々選んだ研究対象に対し対応分析してみる	第23回	各々選んだ研究対象に対しテキストマイニング
第8回	対応分析結果の解釈および応用法をゼミ内で発表	第24回	テキストマイニング結果の解釈および応用法発表
第9回	ネットワーク分析のやり方の説明	第25回	主成分分析のやり方の説明
第10回	サンプルに対してネットワーク分析を行ってみる	第26回	サンプルに対して主成分分析を行ってみる
第11回	ネットワーク分析が用いられた研究の調査①	第27回	主成分分析が用いられた研究の調査①
第12回	ネットワーク分析が用いられた研究の調査②	第28回	主成分分析が用いられた研究の調査②
第13回	ネットワーク分析が用いられた研究の調査③	第29回	主成分分析が用いられた研究の調査③
第14回	各々選んだ研究対象に対しネットワーク分析	第30回	各々選んだ研究対象に対し主成分分析してみる
第15回	ネットワーク分析結果の解釈および応用法を発表	第31回	主成分分析結果の解釈および応用法をゼミ内発表
第16回	地理情報システムソフト QGIS の使い方の説明	第32回	総括

	ゼミナール名	ゼミナール I (スポーツ科学)		
	ゼミ担当者名	中澤 翔		
	科目分類	専門科目群		
	開講年次	2年次	開講期間	通年
	開講時限	水曜日 1限	単位数	2単位
	実施方法	<input checked="" type="checkbox"/> 対面のみ <input type="checkbox"/> 遠隔のみ <input type="checkbox"/> 対面・遠隔併用		

ゼミのテーマ	競技力向上・健康増進を目的としたスポーツ科学の知見を学ぶ
ゼミの到達目標	<ul style="list-style-type: none"> ・スポーツ科学に関する基礎的な知見を深める ・スポーツ科学を活用した測定評価手法を理解している ・測定したデータから自身のトレーニング計画・運動処方を立案できる
ゼミの概要	<ul style="list-style-type: none"> ・スポーツに関連する著書や論文の概要まとめ、文献抄読を行う ・スポーツ科学を活用した測定評価手法を学からトレーニング計画を立案する(ゼミナールを希望する学生数で授業計画を変更する場合があります)
授業時間外の学習	スポーツ科学に関する書籍や論文を読む(推薦図書・論文を授業中に紹介する)
履修条件	スポーツ科学論(1年次)を履修していることが望ましい
テキスト	特になし
参考文献・資料	スポーツ科学に関する資料を授業中に配布する
成績評価の方法	授業態度 60%、レポート・プレゼンテーション 40% ※出席回数が規定に満たなかった場合及び授業料その他納入金等の全額を納めていない場合は試験を受けることができません。
オフィスアワー	月曜日 9:00-12:00
成績評価基準	秀(100~90点)、優(89~80点)、良(79~70点)、可(69~60点)、不可(59点以下)
学生へのメッセージ	スポーツ科学を学び、「競技力向上」、「健康増進」、「地域社会への貢献」につなげていきましょう。

授業計画			
第1回	体験授業	第17回	スポーツ科学の活用方法③
第2回	オリエンテーション ゼミナールの進め方	第18回	スポーツ科学の活用方法④
第3回	スポーツ科学の活用方法①	第19回	フィールド実践②
第4回	スポーツ科学の活用方法②	第20回	文献抄読（トレーニング）
第5回	フィールド実践①	第21回	文献抄読（トレーニング）
第6回	文献抄読（体力測定・評価）	第22回	トレーニング①測定実施
第7回	体力測定・評価①測定	第23回	トレーニング②測定実施
第8回	体力測定・評価②測定	第24回	トレーニング②まとめ
第9回	体力測定・評価③まとめ	第25回	スポーツに関する著書・論文の概要まとめ、資料の作成④
第10回	スポーツに関する著書・論文の概要まとめ、資料の作成①	第26回	スポーツに関する著書・論文の概要まとめ、資料の作成⑤
第11回	スポーツに関する著書・論文の概要まとめ、資料の作成②	第27回	スポーツに関する著書・論文の概要まとめ、資料の作成⑥
第12回	スポーツに関する著書・論文の概要まとめ、資料の作成③	第28回	文献抄読④
第13回	文献抄読①	第29回	文献抄読⑤
第14回	文献抄読②	第30回	文献抄読⑥
第15回	文献抄読③	第31回	次年度の活動計画・研究計画書の作成
第16回	定期試験（レポート）	第32回	定期試験（レポート）

	ゼミナール名	日本経済のマクロ分析 I		
	ゼミ担当者名	深澤泰郎		
	科目分類	専門科目群		
	開講年次	2年次	開講期間	通年
	開講時限	水曜日 1限	単位数	2単位
	実施方法	<input checked="" type="checkbox"/> 対面のみ <input type="checkbox"/> 遠隔のみ <input type="checkbox"/> 対面・遠隔併用		

ゼミのテーマ	マクロ経済学の視点から、まず日本経済の全体像を理解する。その大前提となる日本の人口問題について確認するとともに、日本の製造業の劣化についてもその実態を把握する。
ゼミの到達目標	日本経済の問題点を探るために、まずその全体像と実態を把握します。それによって、日本経済の問題点が自分なりに理解できます。また、ビジネスパーソンにとっては必ず必要となる毎日の経済ニュースの理解度が飛躍的に高まります。
ゼミの概要	2年次ということで、基礎知識の確認を中心とするため、輪読と意見発表の展開で進めます。基礎知識を習得するとともに、自ら考える姿勢を自分のものとして下さい。この1年で、自分の研究テーマを探して下さい。受講者の理解度、進行状況等を考慮して、シラバスを変更する場合があります。
授業時間外の学習	テキストの内容について、最新の経済データを事前に準備すること。 日本経済新聞に目を通すこと。
履修条件	マクロ経済学Ⅰ、生活経済学の単位を取得済みかまたは同時履修すること。以降に、マクロ経済学Ⅱも履修すること。
テキスト	予定 「日本経済入門」野口悠紀雄 講談社現代新書、
参考文献・資料	「野口悠紀雄の経済データ分析講座」ダイヤモンド社 日本経済と財政危機の本質シリーズ3R「日本が抱える大きな重荷！激減する人口と消滅する地方都市」深澤泰郎、 同シリーズ10「劣化する日本の製造業」深澤泰郎、 その他についてはゼミの中でお話しします。
成績評価の方法	輪読と意見発表 (70%)、まとめのレポート (30%) ※出席回数が規定に満たなかった場合及び授業料その他納入金等の全額を納めていない場合は試験を受けることができません。
オフィスアワー	火曜日 13:00～14:30 14:40～16:10 金曜日 13:00～14:30 14:40～16:10
成績評価基準	秀(100～90点)、優(89～80点)、良(79～70点)、可(69～60点)、不可(59点以下)
学生へのメッセージ	<p>企業の株価と日本経済は別のものです。株価が最高値を付けたとしても日本の将来については、人口動態を主因としてマクロ経済的には非常に暗い展望しか描けません。</p> <p>その解決策を探るには、まず日本経済の実態を把握して将来予想を行う必要があります。そのうえで自分で考える姿勢を習得できれば、就職の際にもさらに就職後の人生に、「有効なツール」となります。</p> <p>国全体は豊かにならない中で、個人として幸福になる道をいっしょに探しましょう。</p> <p>*受講者はかならずパソコンを持参すること。資料はポータルサイトに掲示します。またゼミでパソコンを使用して、経済データの分析(相関関係など)、グラフ作成を行う場合があります。</p>

計画			
第1回	ガイダンス 研究活動における不正行為・不適切な行為の防止について (研究倫理教育) 教科書紹介 1年間の目標設定	第17回	研究活動における不正行為・不適切な行為の防止について
第2回	不振が続く国内需要	第18回	膨張を続ける医療・介護費
第3回	首都圏のジリ貧に気づかない「地域間格差」論の無意味	第19回	公的年金が人口高齢化で維持不可能になる
第4回	「人口の波」が語る日本の過去半世紀、今後半世紀	第20回	日銀の異次元緩和は事実上の財政ファイナンス
第5回	地方も大都市も等しく襲う「現役世代の減少」と「高齢者の激増」	第21回	第8回～19回までのまとめと討論
第6回	「人口減少は生産性上昇で補える」という誤った思い込み	第22回	まとめ
第7回	第1回から6回までのまとめと討論	第23回	新しい技術で生産性を高める
第8回	まとめ	第24回	成長するアメリカと停滞する日本
第9回	経済活動をとらえる経済指標 国民経済計算	第25回	人工知能とビックデータが広げる可能性
第10回	製造業の縮小は不可避	第26回	新しいITサービスが変える市場経済の姿
第11回	製造業就業者は全体のまで縮小	第27回	本格的利用が始まったビットコイン技術
第12回	ピケティの仮説では日本の格差問題は説明できない	第28回	学校教育の問題
第13回	物価の下落は望ましい	第29回	第22回～26回までのまとめと討論
第14回	異次元緩和政策は失敗に終わった	第30回	まとめ
第15回	深刻な労働力不足が日本経済を直撃する	第31回	年間レポート作成
第16回	定期試験	第32回	定期試験

	ゼミナール名	ゼミナールI (マイクロデータ分析・データサイエンス)		
	ゼミ担当者名	森本 敦志		
	科目分類	専門科目群		
	開講年次	2年次	開講期間	通年
	開講時限	水曜日1限	単位数	2単位
	実施方法	<input checked="" type="checkbox"/> 対面のみ <input type="checkbox"/> 遠隔のみ <input type="checkbox"/> 対面・遠隔併用		

ゼミのテーマ	1. 経済データ分析に基づく研究を行います。 2. 全国的な論文大会へ出場し、入賞を目指します。 3. 経済学・データサイエンス系の大学院進学や国家公務員試験合格を目指します。
ゼミの到達目標	統計検定「データサイエンス基礎」を全員取得すること。
ゼミの概要	本ゼミでは、グループワークで研究を行います。ISFJなどの全国的なゼミ論文大会へ出場し、入賞を目指します。
授業時間外の学習	自分が興味を持っている分野の研究論文を読んでください。経済学分野の論文は英語で書かれているものが多いので、英語の学習も行ってください。
履修条件	<u>履修を希望する場合は、履修登録に先だって担当教員と面談し、履修の許可を得てください。履修の許可を得ないまま履修登録をしても、単位の修得を認定しません。</u>
テキスト	各グループの研究テーマに応じて適宜指示します。
参考文献・資料	各グループの研究テーマに応じて適宜指示します。
成績評価の方法	ゼミおよび関連行事への参加と取り組み姿勢 30%、研究成果の発表と貢献度 50%、定期試験 20% の割合で評価する ※出席回数が規定に満たなかった場合及び授業料その他納入金等の全額を納めていない場合は試験を受けることができません。
オフィスアワー	木曜日 9:00～10:30
成績評価基準	秀(100～90点)、優(89～80点)、良(79～70点)、可(69～60点)、不可(59点以下)
学生へのメッセージ	研究の基本となる回帰分析や、データの操作について学びます。さらに因果推定に必要な様々な手法(パネルデータ分析、操作変数法、DID等)も学びます。データ分析はPythonを用いて行います。研究はグループワークで行います。他のメンバーと協調しながら研究を行ってください。

授業計画			
第1回	ガイダンス 研究倫理教育と活動方針の説明	第17回	研究計画の策定
第2回	Pythonによるデータ分析の実習	第18回	研究計画の策定
第3回	Pythonによるデータ分析の実習	第19回	研究計画の策定
第4回	Pythonによるデータ分析の実習	第20回	研究計画の策定
第5回	Pythonによるデータ分析の実習	第21回	研究論文の執筆
第6回	Pythonによるデータ分析の実習	第22回	研究論文の執筆
第7回	実証研究の文献サーベイ	第23回	研究論文の執筆
第8回	実証研究の文献サーベイ	第24回	研究論文の執筆
第9回	実証研究の文献サーベイ	第25回	研究論文の執筆
第10回	実証研究の文献サーベイ	第26回	研究論文の執筆
第11回	実証研究の文献サーベイ	第27回	研究論文の執筆
第12回	実証研究の文献サーベイ	第28回	研究発表
第13回	実証研究の文献サーベイ	第29回	研究発表
第14回	実証研究の文献サーベイ	第30回	研究発表
第15回	実証研究の文献サーベイ	第31回	研究発表
第16回	定期試験	第32回	定期試験